

## 気管支喘息の疫学に関する研究 -- 特に医療意見書の解析とその問題点 --

研究協力者

群馬大学医学部小児科

森川昭廣

共同研究者

徳山研一、荒川浩一、望月博之

加藤政彦

要約：効率の良い小児慢性特定疾患の登録・管理・評価のために、コンピューターに登録されたデータが CD-ROM によりまとめられた。気管支喘息について、医療意見書の解析を担当し、その内容を検討した。その結果、「ぜんそく」5547人中、気管支喘息で5505人の登録があり、性別では男子3370名、女子2108名、無記入27名であった。診断時の年齢は幼児期から学童期にピークがあり、発病時の年齢は1歳にピークがあった。発病時の重症度は、中等症が半数を占めた。なお、重症度未記入のものが1081人とその判定に戸惑っている場合が見られた。検査所見では、IgE は記入された値では、500 IU/ml のものが35%以上であった。IgERAST では複数のアレルゲンに陽性の者が多かった。抹消血や鼻汁中の好酸球は増加傾向を示した。肺機能は、対象に乳幼児が多かったため施行不能と考えられた例が多く、未記入のものが目だった。

研究目的：現在増加し続けている気管支喘息の登録は、その実態と患者の治療をいかに行うべきかの指針として重要である。また、その発症予防、重症化防止にも役立つと考えられる。そこで従来の医療意見書に種々の項目を加え、そのデータを CD-ROM 化して解析し、その実態をより確実に、かつ学術的に捉えようとするものである。

研究方法と対象：平成11年度に56都道府県市に登録された症例を対象とした。CD-ROM をインストールし、解析ソフトに従って集計した。

結果：『ぜんそく』の登録者は5547人であり、ICD10 では98.5%がJ45.9気管支喘息で登録していた。気管支喘息に関しては、新規診断によるものが56.6%であるのに対し、継続は41.3%であった（表1）。性別では、男：女は3：2であった（表2）。診断時の年齢は、2歳までの乳児喘息が16.7%、3～5歳の幼児喘息が29.3%、6歳から11歳までの学童喘息が35.7%で、それ以上の年齢のものは14.8%であった（表3）。通常気管支喘息は6歳までに90%が発症すると言われており、今回の報告と多少ずれがあり、登録者のポピュレーションが年長発症の方に片寄っていた可能性がある。もっとも発病時の年齢でみると、6歳までに67.5%が発病している。なお、

発病時期不明が1258名と22.9%を占めている。

重症度では、軽症20.3%、中等症55.0%、重症1\*20.2%、重症2\*\*1.8%であった。（\*：発作回数が多く、大発作の多いグループ、\*\*：重症でステロイド依存性または意識障害を伴う発作を経験した症例）

検査所見では、IgEは無記入が26.8%と4分の1を占めた。正常と考えられる0-499 IU/mlは37.9%で、500-1499 IU/mlは21.5%、1500 IU/ml以上は14.0%であった（表4）。RASTは無記入の場合が多いが（60.6%）、記載された例では複数のアレルゲンで陽性を示すものが多かった（表5）。抹消血好酸球数は、無記入31.9%であり、0-299/ $\mu$ lが17.6%、300-599/ $\mu$ lが12.9%であり、600-999/ $\mu$ l、1000-1499/ $\mu$ lは各々5.7、6.1%であった。それ以上では頻度が激減した（表6）。また、鼻汁中の好酸球も無記入が多く（85.0%）、さらに肺機能については、FEV<sub>1</sub>,FEV<sub>1</sub>(%),PEFの記載率も10-20%程度であった。さらに刺激薬による肺機能の改善率については96%で記載がなかった。気道過敏性については未実施が半数を占めた。また、実施した例では過敏性なしが1.8%に見られたことは注目された。

以上、5505名の気管支喘息登録例についてその記載内容を検討した。その結果、

- 1) 約半数が乳幼児であった。
- 2) 中等症以上が80%近くであった。また治療点数は記載されたうちの76.6%は300点以下であった。
- 3) 血液検査所見では、IgEについては記載されたもののうち60%が高値を示した、また、RASTでは複数のアレルゲンに陽性なものが多かった。血液中の好酸球は約半数で高値を示した。
- 4) 肺機能、治療点数等では記載事項に欠落する部分が多く、乳幼児が半数以上を占めたために施行不能であったことが考えられた。また各病院等に記載方法のマニュアルの普及が必要と思われる。

表1 新規・継続別登録

新規・継続	件数	率 (%)
新規診断	3 1 1 3	5 6.6
継続	2 2 7 6	4 1.3
転入	2 4	0.4
無記入	9 2	1.7

表2 性別

性別	件数	率 (%)
男	3 3 7 0	6 1.2
女	2 1 0 8	3 8.3
無記入	2 7	0.5

表3 初診時の年齢

年齢 (歳)	件数	率 (%)
0 - 2	9 1 9	1 6.7
3 - 5	1 6 1 5	2 9.3
6 - 1 1	1 9 6 7	3 5.7
1 2 歳以上	8 1 2	1 4.8
不明	1 9 2	3.5

表4 IgE 値

値 (IU/ml)	率 (%)
0 - 4 9 9	3 7.9
5 0 0 - 9 9 9	1 3.8
1 0 0 0 - 1 4 9 9	7.5
1 5 0 0 - 1 9 9 9	4.4
2 0 0 0 以上	9.6
無記入	2 6.8

表5 RAST

陽性数	率 (%)
0	0.8
1	3.0
2 - 5	3 1.7
6 - 9	4.0
無記入	6 0.6

表6 抹消血好酸球数

値 ( / $\mu$ l )	率 (%)
0 - 2 9 9	1 7.6
3 0 0 - 5 9 9	1 2.9
6 0 0 - 9 9 9	5.7
1 0 0 0 - 1 4 9 9	6.1
1 5 0 0 以上	2 5.8
無記入	3 1.9